

平成 27 年 2 月

内閣府（防災担当）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会について

1. 経緯

日本海溝・千島海溝沿いの海溝型地震に対する防災対策を「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震対策大綱」等に基づき政府全体で重点的に進めてきたところであるが、中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」報告を踏まえ、最大クラスの地震・津波を想定した対策の見直しを行う必要がある。

そのため、過去に発生した日本海溝・千島海溝沿いの海溝型地震に係る科学的知見に基づく各種調査結果について、防災の観点から幅広く整理及び分析し、想定すべき最大クラスの地震・津波断層モデルの設定方針、同モデルによる津波・地震動の推計等の検討を行うことを目的として、理学・工学等の研究者から構成される「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」を開催するものである。

2. 検討内容

- 日本海溝沿いで地震・津波防災対策を検討する上で、想定すべき最大クラスの地震・津波断層モデルの設定方針
- 千島海溝沿いで地震・津波防災対策を検討する上で、想定すべき最大クラスの地震・津波断層モデルの設定方針
- 上記断層モデルによる津波・地震動の推計

3. 検討スケジュール

平成 27 年 2 月以降、1 ヶ月に 1 回程度で開催

東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会

東日本大震災を踏まえて今後の地震・津波対策についての検討を重ね、平成23年9月28日に報告をとりまとめた。
(平成23年5月28日から4ヶ月間、全12回審議)

専門調査会報告の要点

今回の地震・津波被害の特徴と今後の想定津波の考え方

今回の地震・津波被害の特徴と検証

- 巨大な地震・津波による甚大な人的・物的被害が発生 ○ 想定できなかったM9.0の巨大な地震
 - 実際と大きくかけ離れていた従前の想定 / 海岸保全施設等に過度に依存した防災対策/ 実現象を下回った津波警報など
- ⇒ **反省と教訓をもとに防災対策全体を再構築**

防災対策で対象とする地震・津波の考え方

- **あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波を検討**
- 古文書等の分析、津波堆積物調査、海岸地形等の調査などの科学的知見に基づき想定地震・津波を設定
- 地震学、地質学、考古学、歴史学等の統合的研究を充実

津波対策を構築するにあたってのこれからの想定津波の考え方

今後、二つのレベルの津波を想定

- **発生頻度は極めて低いもの、甚大な被害をもたらす最大クラスの津波**
 - ・ 住民等の生命を守ることを最優先とし、住民の避難を軸に、とりうる手段を尽くした総合的な津波対策を確立
- **発生頻度は高く、津波高は低いもの大きな被害をもたらす津波**
 - ・ 人命保護に加え、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化、効率的な生産拠点の確保の観点から、海岸保全施設等を整備